

第36図 SG41出土遺物（2）

たい。酒田市資料館長 小野 忍氏より、県内出土の類例についてご教示を頂いた。なお、東北芸術工科大学准教授 北野 博司氏より、風船技法による成形である旨のご指摘を頂き、実測図中に円盤閉塞の箇所について破線で示した（第37図）。

現場調査中に、調査時の廃土中から平瓦（198）が確認された。凸面に繩目状のタタキが、外面に布状の圧痕が施される。山形市城で、消費地遺跡において古代の瓦が確認される類例は極めて少なく、貴重な出土事例と考えられる。

その他、墨書き器（109・111・124・129）がIV層・V層から確認されたが、墨痕の残りが悪く、字形や土器そのものの器形も多岐にわたり、字形が判読できたものはなかった。

土師器については、甕の破片を主として大量の破片が確認されたが（157～179）、全体が接合した個体は無かった。体部の内外面にハケ目を施し、口縁部にナデを施す調整のものが大半であった。

底部痕跡には木葉痕とムシロ痕のもの、どちらも確認された。

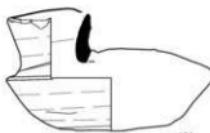
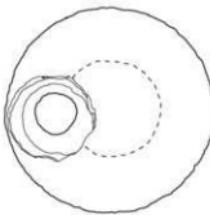
その他、灰釉陶器皿（194）が1点確認された。内面に灰釉が施され、体部のカーブが一定でなく、耳皿となる可能性も推定される。



102



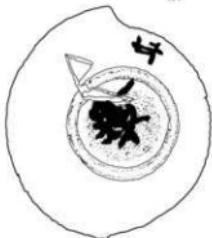
103



104



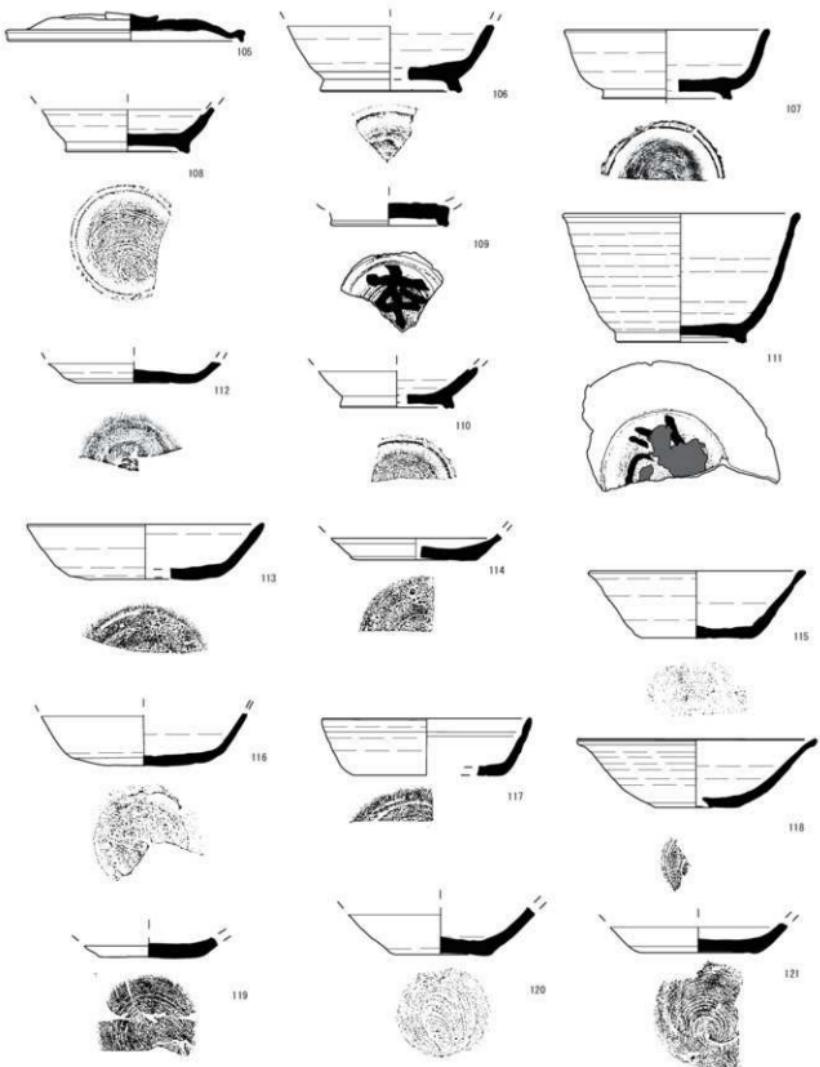
197



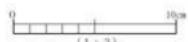
198

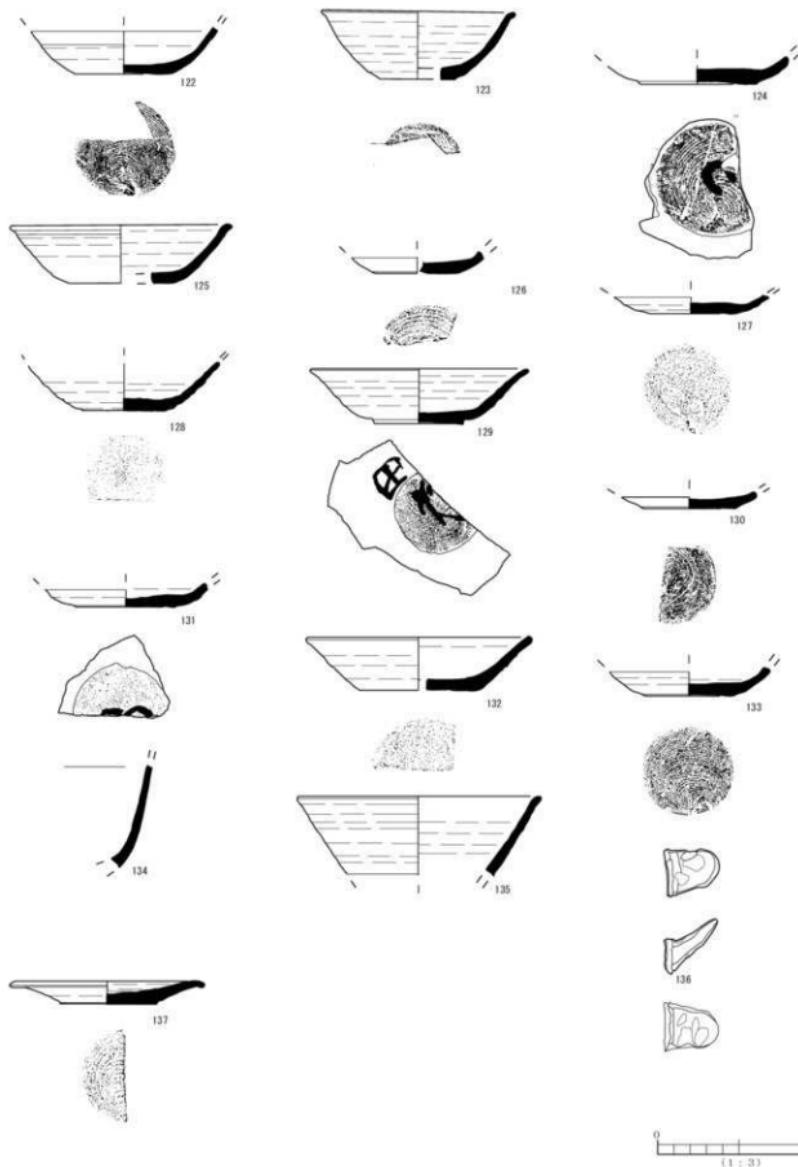


第37図 VI層・Vb層・Vc層・IV層・II層出土遺物

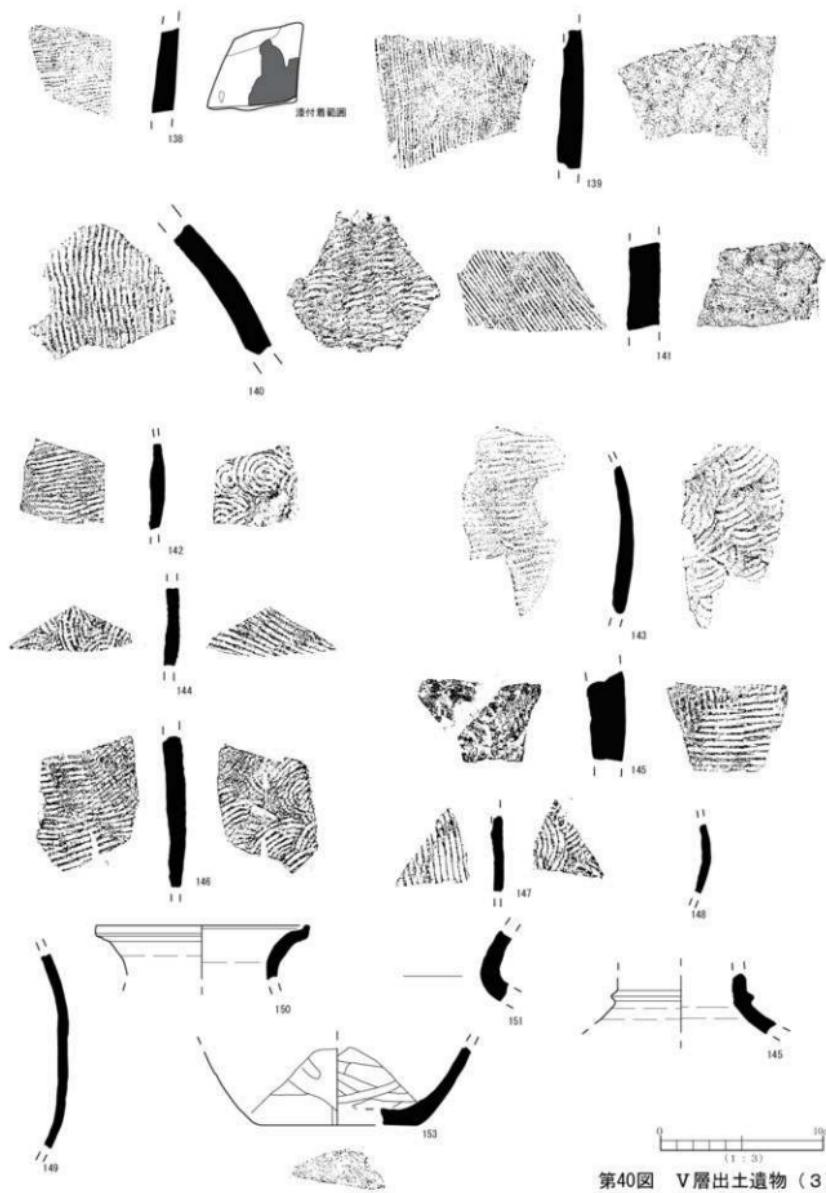


第38図 V層出土遺物(1)





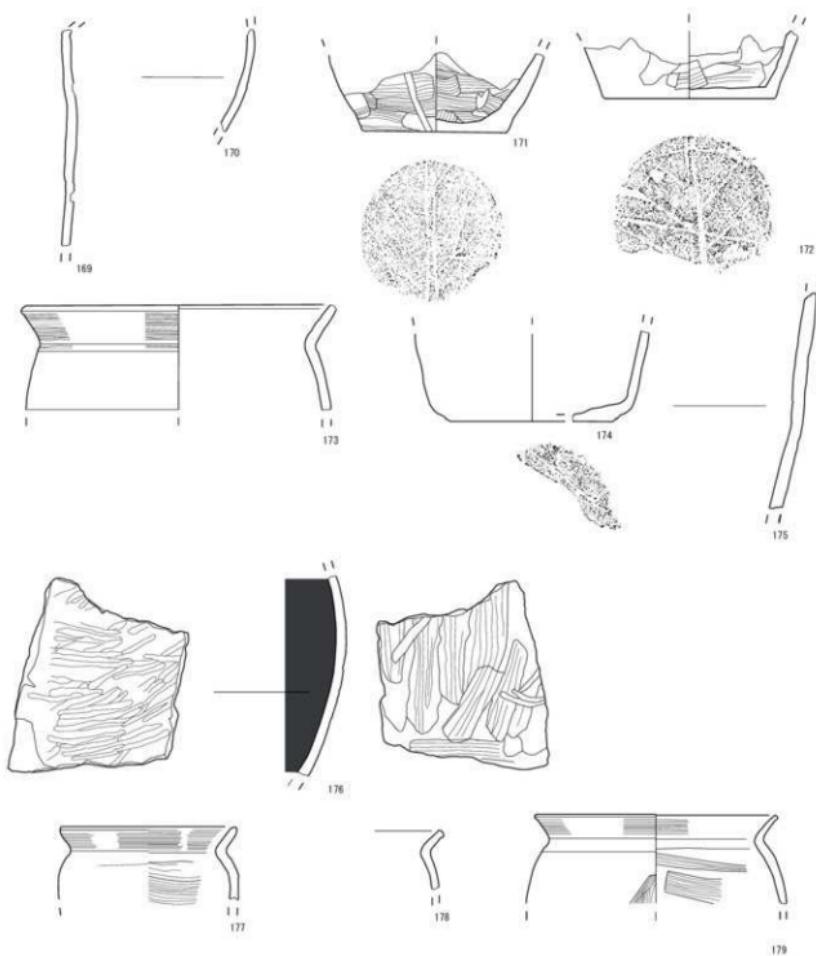
第39図 V層出土遺物（2）



第40図 V層出土遺物（3）

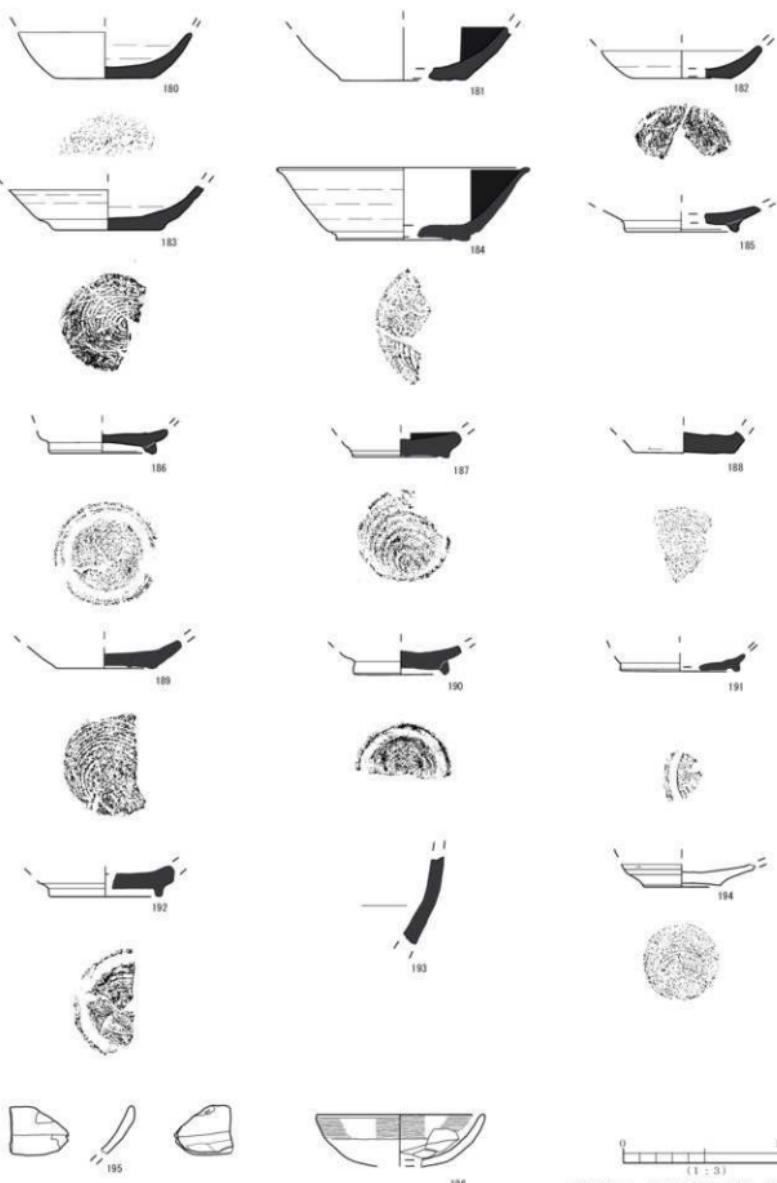


第41図 V層出土遺物（4）



第42図 V層出土遺物 (5)





第43図 V層出土遺物(6)

表 1 梅野木前1遺跡土層注記

遺構記号	遺構番号	層位	土色	土質	備考	攝因	国版
SD	1	1	10Y62/1	粘質シルト	立ち上がりは地山砂混じる。		
		2	10Y62/1	粘質シルト	均質。	31	15
		3	2, 5Y5/2	粗砂	2層のブロック混じる。		
		4	2, 5Y5/2	粗砂	地山。		
SP	2	1	10Y62/1	砂	同じのシルト混じる。遺物含む。柱根。	31	14
		2	2, 5Y5/2	砂	1層のブロック含む。崩落土。		
SP	3	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。地山の砂大量に混じり、マンガン斑あり。	33	-
SP	4	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。均質。遺物含む。SHの2層とれる。区分不明確。伴うか?	33	15
SP	5	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。同じのシルト混じる。10Y62/1粘質シルトブロック(延3m)面積に混じる。	18	-
		2	2, 5Y5/2	粗砂	10Y63/1粘質シルトブロック含む。		
SP	6	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。立上がりは地山砂ブロック(2, 5Y5/2細砂)混じる。	18	-
SP	7	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂(2, 5Y5/2)ブロック含む。	18	9
SP	8	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂(2, 5Y5/2)ブロック含む。	18	8
SP	9	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。均質。	18	8
		2	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。5Y4/1砂ブロック含む。		
SP	10	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。5Y4/1砂ブロック(延3m)に含む。	18	8
		2	2, 5Y4/1	砂	10Y62/1粘質シルトブロック(延3m)に含む。		
SP	11	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。	18	8
		2	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。		
SP	12	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。アリか? 5Y4/1粗砂ブロック含む。	23	9
		2	5Y4/1	砂	10Y62/1粘質シルト粒状(延3m~5m)に含む。崩落土。		
SP	13	1	10Y62/1	粘質シルト	5Y4/1砂ブロック含む。	23	9
SP	14	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。ほぼ均質。先端柱状。	23	9
SP	15	1	10Y62/2	粘質シルト	砂混じる。2, 5Y4/1砂(地山)粒状(延5m)に含む。	23	9
SD	16	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂(2, 5Y5/2)ブロック混じる。		
		2	10Y63/2	粘質シルト	5Y5/2砂10%混じる。	18	9
SP	17	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。地山砂(2, 5Y5/2)ブロック混じる。	18	9 13
		2	2, 5Y5/2	砂	地山。		
SD	18	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。5, 5Y1/2砂ブロック多量に含む。		
		2	10Y62/1	粘質シルト	3Y5/1砂ブロック含む。	23	7
SP	19	1	5Y5/1	砂	10Y62/1粘質シルト帯状に含む。		
		2	10Y62/1	粘質シルト	10Y62/1粘質シルトブロック含む。	23	12
SD	20	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。10Y63/2粘質シルトブロック含む。		
		2	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。10Y62/1粘質シルトブロック含む。	18	9
SP	21	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。10Y62/1粘質シルトブロック含む。	18	10
		2	2, 5Y5/2	砂	10Y62/1粘質シルトブロック含む。		
SP	22	1	10Y63/1	粘質シルト	2, 5Y5/2砂ブロック含む。	18	10
		2	2, 5Y5/2	砂	10Y63/1粘質シルトブロック含む。10Y63/2粘土ブロック含む。		
SP	23	1	10Y62/1	粘質シルト	砂含む。上部に7, 5Y4/1粘質シルトブロック含む。		
		2	10Y62/1	粘質シルト	均質。	18	11
SP	24	2	10Y62/2	粘質シルト	2, 5Y5/2砂ブロック含む。		
		3	2, 5Y5/2	砂	10Y62/1粘質シルトブロック含む。		
SP	25	1	10Y62/1	粘質シルト	2, 5Y5/2砂ブロック含む。	18	10
		2	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。		
SP	26	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。		
		2	2, 5Y5/2	砂	10Y63/1粘質シルトブロック含む。	18	11
SP	27	1	10Y62/1	粘質シルト	10Y65/2砂10%ブロック含む。SF29の崩れか?		
		2	7, 5Y4/1	粘質シルト	砂混じる。下部に2, 5Y5/2砂ブロック混じる。	18	11
SP	28	1	10Y63/1	粘質シルト	2, 5Y5/2砂ブロック含む。		
		2	2, 5Y5/2	砂	10Y63/1粘質シルトブロック含む。		
SP	29	1	10Y62/1	粘質シルト	2, 5Y5/2砂ブロック含む。	18	12
		2	10Y62/1	粘質シルト	均質。		
SP	30	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。2, 5Y5/2砂ブロック含む。	18	12
		2	10Y62/2	粘土	2, 5Y5/2砂混じる。		
SP	31	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。		
		2	2, 5Y5/2	砂	10Y63/1粘質シルトブロック含む。SF29の崩れか?		
SP	32	1	10Y62/1	粘質シルト	2, 5Y5/2砂ブロック含む。		
		2	2, 5Y5/2	砂	10Y65/2砂10%ブロック含む。	18	12
SP	33	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。5Y4/1砂ブロック含む。		
		2	5Y4/1	砂	10Y62/1粘質シルトブロック含む。	18	8
SP	34	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。5Y5/1砂(地山ブロック)混じる。	18	11
		(SB16)	1	10Y63/1	粘質シルト	砂混じる。	18
SD	35	1	10Y62/1	粘質シルト	砂混じる。5Y5/1砂ブロック含む。		
		2	2, 5Y5/2	砂	砂質鉄紋岩質に混じる。	18	11
SD	36(西側ベント)	1	10Y63/1	粗砂	10Y68/40%粗砂由来シルトをφ2~3cm大ブロックで底に5%含む。	35	18
		2	10Y68/4	シルト	Y層の下方にまとまって堆積する。次山成のようにさらさらする。		
SP	37	1	10Y62/2	細砂	粘質あり。1層に比410Y65/1ブロック多く、30%含む。		
		2	10Y62/1	シルト	粘質あり。1層間に比410Y65/1ブロック多く、30%含む。	12	4 5 18
		3	10Y67/2	細砂	延3~5cm大ブロックで堆積する。短時間に堆積したものか。		

造積 記号	造積番号	規 則	土 色	土 質	備 考	標 高	回 数
SI	37	4	10Y2E/1	シルト	10YR3.2砂約3cm大ブロックで60%含む。東側で粒度小さくなる。 呈現出来るのは1秒砂約10mm含む。1層よりシルト多い。	12.	4 5 18
		5	10Y3E/2	粗砂	呈現出来のは1秒砂約10mm含む。V層とほぼ同じ。	33	13 18
SK	38	3	10Y2E/1	シルト	粘性あり。V層出来のチャート・粗砂を混じる。		
		2	10Y2E/2	粗砂	呈現の細砂を1cm以下で5%含む。		
		3	10Y2E/2	細砂	呈現の細砂を下層にレンズ状に堆积する。	33	-
SD	39	4	10Y2E/2	粗砂	粗砂に平行してラミナ状にV層面砂堆积する。	9	-
		5	10Y3E/1	シルト	粗砂多く混じる。V層と酷似。	34	18
SG	41	2	10Y3E/3	粗砂	粗砂多く含む。	26	15
SP	42	2	2, 5/4/1	砂	10YR4.1粘質シルト粘(径5~10mm)含む。	20	-
SP	43	3	10Y3E/1	粘質シルト	粘質シルト。は付均質。		
		4	7, 5/4E/2	粘質シルト	粘質シルト。マンガン斑有り。		
SP	45	2	10Y3E/1	粘質シルト	7, 5/4E/1粘質シルト粘(径5~10mm)・2, 5/4E/1砂粘(径5~10mm)含む。マンガン斑有り。	27	-
		3	10Y3E/3	粘質シルト	7, 5/4E/2粘質シルトブロック(径20~30mm)含む。		
		4	2, 5/4/1	砂	10YR3.1粘質シルト帶に含む。		
SP	46	1	2, 5/4/1	砂	10YR2.1粘質シルト粘(径5~10mm)含む。	26	-
SP	47	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。2, 5/4E/1砂ブロック(径5~10mm)含む。	27	-
		2	2, 5/4/1	砂	10YR2.1粘質シルト粘(径5mm)含む。		
SP	48	1	2, 5/4/1	砂	10YR2.1粘質シルト粘(径5mm)含む。	27	-
SP	50	2	10Y3E/2	砂	2, 5/4E/2砂粘じる。	27	15
SP	51	3	2, 5/5/2	砂	10YR3.1粘質シルト粘(径5mm)次に。10Y3.2砂粘(径5mm)含む。	27	-
SP	52	1	10Y3E/1	粘質シルト	砂粘じる。2, 5/4E/1砂粘(径5mm)含む。他のビットと明らかに覆土異なる。水田耕作の土に似る。	27	-
		2	2, 5/5/2	砂	10YR2.1粘質シルト粘(径10~30mm)含む。		
SP	53	2	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。	27	-
SP	54	1	2, 5/4/1	砂	10YR3.1粘質シルトドロップ(径10~30mm)含む。	27	-
SP	55	1	10Y3E/1	粘質シルト	2, 5/4E/1砂ブロック(径10~30mm)含む。	27	-
SP	56	3	10Y2E/1	粘質シルト	10YR4.1砂ブロック(径10mm)・3, 5/4E/2砂ブロック(径20~40mm)・ブロック含む。	27	-
SP	57	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。2, 5/4E/1砂ブロック(径5~10mm)含む。	27	-
SP	62	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。	27	-
SP	63	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。は付均質。	27	-
SP	64	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。は付均質。	27	-
SP	66	1	10Y3E/1	粘質シルト	砂粘じる。は付均質。	27	-
SP	67	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。は付均質。	27	-
SP	68	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。5/4/1砂ブロック(径5~10mm)含む。	27	-
SP	69	1	10Y2E/1	粘質シルト	10YR5.2砂約プロック(径20mm)含む。風化凝灰岩角礫(径5mm)含む。	27	-
SP	70	1	2, 5/4/1	砂	10YR2.1粘質シルト粘(径5mm)含む。風化凝灰岩角礫(径5mm)含む。	27	-
SP	71	1	10Y3E/1	粘質シルト	砂粘じる。2, 5/4E/1砂ブロック(径10~20mm)含む。	27	-
SP	72	1	2, 5/4/1	砂	10YR3.1粘質シルト粘(径5mm)含む。	27	-
SP	73	1	2, 5/4/1	砂	10YR2.1粘質シルト粘(径5mm)含む。	27	-
SP	74	1	10Y2E/1	粘質シルト	2, 5/4E/1砂ブロック(径5mm)含む。	27	-
SP	75	2	2, 5/4/1	砂	10YR2.1粘質シルト粘(径5mm)含む。	27	-
SP	76	1	2, 5/4/1	砂	10YR2.1粘質シルト粘(径5~10mm)含む。	27	-
SP	77	1	10Y2E/1	粘質シルト	10YR4.1砂粘(径10~20mm)含む。	27	-
SI	80	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。10YR5.1砂粘プロック(径50mm)含む。	14	5
SD	81	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。は付均質。V層との区別不明。	24	4 5
SD	82	1	10Y2E/1	シルト	呈現由来の5/4/1砂粘プロックを5%。1m=4cm大ブロックで含む。北に向かうとプロックの合割率が増す。	12	-
SD	82 (D-D')	3	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。10YR5.1砂粘プロック(径20~50mm)含む。	12	-
SP	84	3	10Y3E/3	細砂	10YR2.1粘質シルト粘(径5mm)含む。	25	-
SP	85	2	10Y3E/1	粘質シルト	砂粘じる。5/4/1砂粘プロック含む。	25	-
SP	86	1	10Y3E/1	粘質シルト	5/4/1砂粘プロック直状に含む。5/4/1砂粘プロック含む。	25	-
SP	87	1	10Y3E/1	粘質シルト	10YR2.1粘質シルト粘状に含む。5/4/1砂粘プロック含む。	25	-
SP	88	1	10Y3E/1	粘質シルト	は付均質。5/4/1砂粘じる。	25	-
SP	89	1	10Y3E/1	粘質シルト	5/4/1砂粘プロック含む。	25	-
SP	90	1	10Y3E/1	粘質シルト	5/4/1砂粘プロック含む。	25	-
SP	91	1	10Y2E/1	粘質シルト	5/4/1砂粘プロック含む。	25	-
SP	92	1	10YR3/1	粘質シルト	5/4/1砂粘プロック含む。	25	-
SP	93	1	10Y3E/1	砂	10YR3.2砂質シルトプロック含む。マンガン斑有り。	25	-
SP	94	1	10Y3E/1	粘質シルト	砂粘じる。10YR5.1砂粘プロック(径20~40mm)含む。V層とはほぼ同じ。	24	-
SD	96	1	10Y2E/1	粘質シルト	砂粘じる。5/4/1砂粘プロック含む。	24	14
SP	98	2	10Y2E/2	シルト	粗砂わずかに混じる。	29	-
SP	99	1	10Y3E/1	粘質シルト	砂粘じる。マンガン斑有り。5/4/1砂粘プロック(径20mm)含む。	29	-
SP	103	2	2, 5/4/1	砂	10YR3.1粘質シルト試じる。	29	-
SP	104	1	10Y4E/1	粘質シルト	5/4/1砂粘プロック(径20~50mm)含む。	29	-
SP	105	2	10Y3E/1	粘質シルト	5/4/1砂粘プロック(径50mm)含む。	29	-
SP	106	1	10Y3E/1	粘質シルト	砂粘じる。5/4/1砂粘プロック(径50mm)含む。	29	-

直横 記号	直横番号	層 別	土 色	土 質	備 考	標 高	國 版
SP	106	2	5Y5/1	砂	10Y3/1粘質シルトブロック（延10mm）含む。	29	-
SP	108	1	10Y6/1	粘質シルト	砂泥じる。5Y5/1砂ブロック（延50mm）含む。	29	-
SP	109	3	10Y6/4	砂	5Y5/1砂ブロック混じる。	29	18
SP	110	1	7.5/5	砂	10Y4/1粘質シルトブロック（延10mm）含む。マンガン斑あり。	29	-
SD	112	1	10Y6/3	粘質シルト	7.5Y5/1砂泥じる。マンガン斑有り。	15	-
SD	113 (145)	3	10Y6/2	粗砂	均質。	20	16
SD	113 (159 - 145)	3	10Y6/1	細砂	炭化物わずかに含む。	20	16, 17
SD	113	2	10Y6/2	粘質シルト	砂泥じる。マンガン斑有り。5Y5/1砂ブロック（延10mm）含む。	20	16, 17
SD	114	3	10Y6/2	粘質シルト	砂泥じる。10Y6/2-1粘質シルトブロック（延10mm）-5Y5/1砂ブロック（延5 ~ 10mm）含む。	20	16, 17
SD	115	3	10Y6/2	粘質シルト	砂泥じる。マンガン斑有り（V字型と岩型）。	20	-
SP	116	3	10Y6/2	粘質シルト	砂泥じる。10Y4/1砂ブロック含む。	24	17
SP	117	3	10Y6/2	粘質シルト	砂泥じる。10Y5/1砂ブロック（延20mm）-10Y6/1粘質シルトブロック（延10 ~ 30mm）含む。	30	-
SP	118	3	10Y6/2	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（延20mm）-10Y6/1粘質シルトブロック（延5 ~ 10mm）含む。	30	-
SP	119	3	10Y6/2	粘質シルト	10Y4/1-15Y6/1粘質シルトブロック（延40mm）-5Y5/1砂ブロック（延20 ~ 40mm）含む。	30	-
SD	120	1	10Y6/2	粘質シルト	10Y4/1粘質シルトブロック（延10 ~ 30mm）含む。	7, 30	-
SP	121	3	10Y6/2	粘質シルト	10Y4/1-15Y6/1粘質シルトブロック（延10mm）含む。	30	-
SP	122	3	10Y6/2	粘質シルト	10Y4/1粘質シルトブロック（延10 ~ 10mm）含む。	30	-
SD	123	3	10Y6/4	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（延20mm）含む。	30	19
SP	124	1	10Y6/2	粘質シルト	10Y3/1粘質シルトブロック（延50mm）-5Y5/1砂ブロック（延40 ~ 100mm）含む。	30	-
SD	125	3	10Y6/2	シルト	下方に10Y6/1シルト（延30 ~ 50mm）-砂泥10%含む。	7, 31	15
SD	126 (141)	3	5Y6/1	細砂	10Y3/1粘質シルトブロック（延50mm）含む。	20	17
SD	126 (145 - 148)	3	10Y6/2	砂質シルト	5Y6/1砂泥シルトブロック（延50mm）含む。	20	-
SP	127	2	10Y6/2	粘質シルト	10Y4/1粘質シルトブロック（延5 ~ 10mm）含む。	20	18
SP	128	2	10Y6/2	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（延20mm）含む。	26	-
SD	131	3	N2	シルト	炭化物多く含む。	20	-
SP	132	3	10Y6/1	粘質シルト	2.5Y5/1砂ブロック（延30mm）含む。	20	-
SP	133	3	10Y6/1	粘質シルト	砂泥じる。マンガン斑有り。	20	-
SP	134	3	10Y6/1	粘質シルト	5Y5/1砂泥じる。	15	17
SP	135	3	5Y5/1	粘質シルト	砂泥じる。	30	-
SP	136	1	10Y6/2	粘質シルト	10Y3/2 粘土ブロック（延30mm）含む。10Y6/2-1粘質シルト帶状に含む。	32	-
SP	138	3	10Y6/4	粗砂	10Y7/2-1ルート50%含む。	20	17
SD	139	3	10Y6/4	粗砂	見出由来の10Y5/2粗砂が帯状に30%混じる。	15	6
SD	139 (140 - 112)	3	10Y6/2	粗砂	炭化物ブロック（延5 ~ 7mm）を全体に10%含む。	15	-
SD	140	3	10Y6/2	シルト	全体的に炭化物帶状じる。	7	-
SP	141	3	10Y6/4	粗砂	砂泥じる。	20	-
SD	142 (172 - 150)	3	10Y6/2	粗砂	マンガン粒わずかに混じる。	20	-
SD	143	3	10Y6/4	粗砂	均質。	7	-
SP	144	3	10Y6/4	粗砂	均質。	20	-
SD	145 (113)	3	10Y6/4	粗砂	均質。	20	16, 17
SD	145 (148 - 126)	3	10Y6/4	粗砂	炭化物わずかに混じる。	20	-
SD	146	3	10Y6/4	粘質シルト	10Y5/1砂ブロック（延30 ~ 50mm）含む。下部にマンガン斑。	20	-
SD	148 (159 - 113)	3	10Y6/3	シルト	見出粗砂40%含む。	-	17
SP	149	3	10Y6/4	粘質シルト	5Y5/1砂ブロック（延20 ~ 30mm）-10Y6/4粘土ブロック（延20cm）含む。	20	-
SP	150 (177 - 142)	3	10Y6/4	粘質シルト	マンガン粒わずかに混じる。	20	-
SP	151	3	10Y6/2	細砂	白色粗砂わずかに混じる。	20	-
SP	156	3	10Y6/5	細砂	炭化物粒わずかに混じる。	20	17
SP	157	2	10Y6/7	シルト	鈣化鉄鉱斑微量に混じる。	20	-
SP	159	3	10Y6/5	細砂	炭化物粒（延10mm）で5%含む。	20	16
SD	171 (142 - 150)	3	10Y6/2	粗砂	均質。	20	-
SD	172	3	10Y6/5	粗砂	マンガン粒微量に含む。	20	16
SD	172	2	10Y6/7	粗砂	わずかに炭化物含む。	20	-
B-3	-	-	-	-	-	7	-
B-10 ~ 9西壁	-	-	-	-	-	7	-
B-17 ~ 22西壁	-	-	-	-	-	7	19
B-23 ~ 25西壁	-	-	-	-	-	7	13
C ~ H-9北壁	-	-	-	-	-	8	19
C ~ H-16北壁	-	-	-	-	-	8	-
D ~ H-22北壁	-	-	-	-	-	8	-
E-2 ~ 4東壁	-	-	-	-	-	9	-
E-2 ~ 4東壁	-	-	-	-	-	9	-
E-6 ~ 8東壁	-	-	-	-	-	9	13
E-10 ~ 12東壁	-	-	-	-	-	9	-
E-10 ~ 12東壁	-	-	-	-	-	9	-
E-13 ~ 15東壁	-	-	-	-	-	9	-
E-13 ~ 15東壁	-	-	-	-	-	9	-
E-18 ~ 21東壁	-	-	-	-	-	10	-
E-18 ~ 21東壁	-	-	-	-	-	10	-

表2 梅野木前1遺跡柱穴観察表

SP番号	所在グリッド	平面形状	図S (cm)	備考	補圖	回観		
134	I	—	16	不整形	20	覆土24VC層に鉛錠。遺物なし。	15	17
7	F	—	7	円形	10	SB169及び170との間連不明。	17	—
8	F	—	7	円形	8	SB169及び170との間連不明。	17	—
30	D	—	7	不整形	12	覆土はまいと。落ち込みかげり。	17	12
33	F	—	7	円形	20	SP8との切り合い不明。	17	12
144	I	—	18	円形	10	土師器小破片出土。	19	—
159	I	—	18	円形	10	SD113西に隣接するら、切り合い不明。	19	—
158	I	—	19	円形	15	ブラウンの軽質シルト覆土。	19	17
160	I	—	20	円形	—	土師器(30)出土。	19	—
161	I	—	20	円形	—	土師器(30)出土。	19	—
12	G	—	7	円形	15	—	23	—
13	G	—	7	円形	10	非常に浅い。	23	—
14	G	—	7	円形	18	—	23	13
19	G	—	7	円形	23	—	23	12
116	I	—	17	円形	8	被熱線(53)出土。	24	17
94	E	—	9	円形	15	—	24	—
84	D	—	13	椭円形	22	—	25	—
85	D	—	13	不整形	15	—	25	—
86	D	—	14	椭円形	10	—	25	—
87	D	—	14	椭円形	15	—	25	—
88	D	—	14	円形	10	—	25	—
89	D	—	14	円形	5	SP90に切られる。	25	—
90	D	—	14	不整形	10	SP91を切る。	25	—
91	D	—	14	円形	10	SP92を切る。	25	—
92	D	—	14	円形	12	SP93に切られる。	25	—
93	E	—	13	不整形	20	—	25	—
43	I	—	9	円形	20	—	26	—
42	I	—	9	不整形	20	柱樁(56)出土。	26	15
128	I	—	8	不整形	20	—	26	—
64	H	—	9	円形	10	—	26	—
63	H	—	9	円形	20	—	26	—
62	H	—	9	不整形	20	—	26	—
45	I	—	9	不整形	20	—	26	—
46	I	—	9	円形	20	柱樁(57)出土。	26	—
68	I	—	10	円形	14	—	27	—
57	I	—	10	円形	16	—	27	—
47	I	—	10	円形	22	SP48を切る。	27	—
48	I	—	10	円形	18	SP47に切られる。	27	—
54	I	—	10	円形	18	SP55を切る。	27	—
55	I	—	10	円形	14	SP56に切られる。	27	—
56	I	—	10	円形	10	—	27	—
66	I	—	10	円形	22	—	27	—
50	I	—	10	円形	20	柱樁(59)出土。	27	15
70	I	—	10	円形	22	—	27	—
67	I	—	10	円形	10	—	27	—
51	I	—	10	不整形	20	—	27	—
72	I	—	10	円形	20	—	27	—
71	I	—	10	円形	20	—	27	—
74	I	—	10	円形	25	—	27	—
75	I	—	10	円形	10	—	27	—
76	I	—	10	円形	10	—	27	—
73	I	—	10	円形	16	—	27	—
69	I	—	10	円形	32	深い。	27	—
52	I	—	10	円形	15	SP53に切られる。	27	—
53	I	—	10	円形	20	SP52を切る。	27	—
77	I	—	11	円形	12	—	27	—
98	G	—	16	椭円形	22	柱樁(60)出土。	29	—
99	G	—	16	円形	12	掘り過ぎ。	29	—
105	F	—	16	方形	18	—	29	—
106	G	—	16	円形	20	—	29	—
108	F	—	16	円形	16	—	29	—
109	F	—	16	椭円形	16	—	29	18
110	F	—	16	円形	40	掘りすぎかげり。	29	—
103	E	—	16	椭円形	10	—	29	—
104	E	—	16	円形	18	—	29	—
117	I	—	24	円形	20	深い。	30	—
118	I	—	24	円形	15	—	30	—
119	I	—	24	円形	20	SP124に切られる。	30	—
124	I	—	25	円形	16	SP119を切る。	30	—
120	H	—	25	円形	18	—	30	—
121	I	—	25	円形	14	覆土粘性強い。ほぼ均質。	30	—
122	I	—	25	円形	18	—	30	—
135	H	—	25	円形	14	—	30	—
136	I	—	25	方形	12	—	30	—
3	F	—	18	円形	12	—	31	14
2	F	—	18	円形	14	—	31	14
4	F	—	19	円形	10	SD1内。切り合い不明。覆土SD1に類似。	31	15

表3 梅野木前1遺跡出土遺物観察表

番号	グリッド	出土遺物	器種	種別	口径	底径	器高	外面	内面	底面	備考	辨別	回収
1	I-17	S137F1	須恵器	瓶	(13.8)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	体部外縁裏面有り。	13	26
2	F-10	S137	木製品	木簡	-	-	-				内容財質多様。	13	20 21
3	F-10	S137	木製品	木簡状木製品	-	-	-				墨痕確認できず。	13	21
4	F-10	S137F1	石製品	板状磨	-	-	-				外面に授熱斑。煤	13	27
5	F-10	S137F1	石製品	磨石状石製品	-	-	-				全面に擦痕有り	13	21
6	G-10	S137F1	石製品	板状磨	-	-	-				研磨物非常に多い。	13	29
7	F-10	S137F2	石製品	皮剥離	-	-	-					13	21
8	E-9	S196F2	須恵器	無台輪	6.6	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面墨書き有り。	14	21
9	E-9	S196F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明	内面放熱。擦痕有り。	14	21
10	F-9	S196F1	須恵器	便	-	-	-	ハケ目	ナデ	平底		14	21
11	F-9	S196F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		14	21 20
12	F-9	S196F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		14	21
13	I-17	S3139F1	須恵器	蓋	(16.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	砂粒生ばらに含む。	15	29
14	I-18	S3139F1	須恵器	蓋	(15.6)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	路ナデ		15	29
15	I-18	S3139F1	須恵器	杯	(12.4)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		15	26
16	I-18	S3139F1	須恵器	蓋	-	-	-	不明	ロクロナデ	回転系切	底面擦痕有り。	15	26
17	I-17	S3139F1	須恵器	便	(17.8)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		15	29
18	I-17	S3139F1	土師器	便	(24.1)	-	-	ハケ目+ナデ	ハケ目+ナデ	不明		15	22
19	I-18	S3139F1	土師器	便	(20.0)	-	-	ハケ目+ナデ	ハケ目+ナデ	不明		15	22
20	I-18	S3139F1	土師器	便	(25.0)	-	-	ハケ目+ナデ	ハケ目+ナデ	不明		15	22
21	I-18	S3139F1	土師器	便	(24.0)	-	-	ハケ目+ナデ	ナデ	不明		15	22
22	I-17	S3139F1	土師器	便	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明	外面に使用痕多量に付着。	15	22
23	I-18	S3139F1	土師器	便	(24.0)	-	-	ナデ	ハケ目+ナデ	不明		15	22
24	I-18	S3139F1	土師器	中型便	(13.2)	-	-	ハケ目	ナデ	不明		15	29
25	I-17	S3139F1	土師器	便	(15.2)	-	-	ハケ目+ナデ	ハケ目+ナデ	不明		15	22
26	I-17	S3139F1	土師器	便	(8.4)	-	-	ハケ目	ハケ目	木葉痕		15	29
27	F-7	SP1	木製品	往柾	-	-	-			ケズリ	長軸15.0cm	18	27
28	F-6	SP34	木製品	往柾	-	-	-			ケズリ	長軸41.0cm	18	27
29	I-20	SP127F1	須恵器	有台輪	7.8	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切		21	30
30	I-20	SP169F1	土師器	便	9.4	-	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕		21	30
31	I-20	SP161F1	土師器	便	(11.4)	-	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕	外面に複多量に付着。	21	30
32	I-18	SD139F1	赤陶土器	無台輪	12.3	6.0	4.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切		21	36
33	I-19	SD139F1	須恵器	杯	(14.2)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		21	23
34	I-19	SD13F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ+ゲ	ロクロナデ	ナデ		21	23
35	I-19	SD13F1	須恵器	有台輪	-	(8.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切		21	36
36	I-19	SD13F1	赤陶土器	無台輪	-	(6.2)	-	ロクロナデ	不明			21	23
37	J-19	SD126F1	須恵器	便	(16.4)	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		21	23
38	J-19	SD126F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		21	23
39	I-19	SD142F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		21	23
40	I-20	SD142F1	土師器	便	-	-	-	不明	不明	ムシロ痕		21	23
41	H-20	SD143F1	須恵器	無台輪	(14.0)	(6.0)	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	極成良い。	21	36
42	H-20	SD143F1	土師器	便	-	(8.0)	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ痕		21	30
43	H-20	SD143F1	土師器	便	-	-	-	ハケ目+ナデ	ハケ目+ナデ	不明		21	23
44	I-19	SD143F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		22	23
45	I-19	SD143F1	土師器	便	16.0	-	-	ナデ	ナデ	不明		22	23
46	I-20	SD143F1	須恵器	杯	-	5.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切		22	23
47	I-18	SD145	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		22	23
48	G-11	SD269F1	須恵器系陶器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明	焼附。	22	24
49	G-11	SD269F1	石製品	被烈熱キ	-	-	-				外面に複多量に付着。	22	24
50	G-11	SD269F1	石製品	羅	-	-	-				使用面に被烈熱跡有り。	22	24
51	G-11	SD269F1	石製品	羅	-	-	-				被烈熱しき。複多い。	22	24
52	F-7	SK18	木製品	刀代?	-	-	-				月面に刃の整形。	23	21
53	J-17	SP116F1	石製品	皮剥離	-	-	-				外表面全面放熱。	24	26
54	D-14	SP127F1	須恵器	杯	(12.6)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		25	32
55	I-8	SP128F1	須恵器	無台輪	-	6.5	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切		26	26
56	I-9	SP42	木製品	往柾	-	-	23.0					28	27
57	I-9	SP46	木製品	往柾	-	-	-			ケズリ	長軸22.3cm	28	27
58	I-10	SK49	木製品	往柾	-	-	-			ケズリ	長軸22.5cm	28	27
59	I-10	SP50	木製品	往柾	-	-	-			ケズリ	長軸19.8cm	28	27
60	G-16	SP98	木製品	往柾	-	-	-			ケズリ	長軸20.5cm	28	27
61	F-16	SP109	木製品	往柾	-	-	-				長軸19.5cm	28	27
62	F-19	SD3F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		32	26
63	F-19	SD3F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	格子状タタキ目	不明		32	29
64	I-20	SD125F1	須恵器	有台輪	-	6.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切		32	29
65	I-20	SD125F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		32	26
66	I-20	SD125F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		32	23
67	I-20	SD125F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		32	-
68	I-20	SD125F1	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アテ痕	不明		32	-
69	I-20	SD125F1	須恵器	便	-	-	-	不明	アテ痕	不明		32	-
70	I-20	SD125F1	土師器	便	-	-	-	不明	アテ痕	木葉痕		32	28
71	I-16	SP109F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		32	30

番号	グリッド	出土遺構	器種	種別	口径	底径	高さ	外面	内面	底部	備考	津国	因版	
12	C-10	SG41F1	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	断面のみ。	35	25	
73	B-7	SG41F1	須恵器	杯	(14.0)	8.0	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回転磨切	-	35	30	
24	B-7	SG41V層	須恵器	無台杯	-	(6.8)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転磨切	-	35	24	
25	B-5	SG41F1	須恵器	無台杯	-	(7.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転磨切	-	35	25	
26	B-6	SG41F1	須恵器	無台杯	-	(7.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転磨切	-	35	25	
27	B-5	SG41F1	須恵器	無台杯	14.1	4.1	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	茎み著しい。	35	30	
28	B-7	SG41F1	須恵器	無台杯	(14.0)	(7.8)	4.15	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	35	30	
29	B-9	SG41V	須恵器	無台杯	-	6.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面墨書き有り。	35	25	
30	B-6	SG41F1	須恵器	無台杯	-	6.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	静止系切	35	25	
31	B-5	B-6	SG41F1	V層	須恵器	蓋	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	表面に擦痕あり。	35	25
32	B-6	SG41F1	須恵器	便	-	(18.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	-	35	30	
33	B-8	SG41F1	須恵器	便	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	-	35	25	
34	B-6	SG41F1	須恵器	便	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	-	35	29	
35	B-7	SG41F1	土師器	便	-	-	-	ハケ目→ナデ	ナデ	不明	-	36	30	
36	B-7	SG41F1	土師器	便	-	(9.8)	-	ハケ目	ハケ目	木葉敷	-	36	30	
37	B-7	SG41F1	土師器	便	-	(8.6)	-	カスリワ	ハケ目	木葉敷	-	36	30	
38	B-7	SG41F1	土師器	便	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明	-	36	24	
39	B-7	SG41F1	土師器	便	-	-	-	不明	不明	ムシロ瓶	-	36	24	
40	B-7	SG41F1	土師器	便	(19.0)	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目→ナデ	不明	-	36	22	
41	B-7	SG41F1	土師器	便	-	-	-	ハケ目→ナデ	ハケ目	不明	-	36	24	
42	B-7	SG41F1	土師器	便	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明	-	36	28	
43	B-7	SG41F1	土師器	便	-	-	-	カズリ	ロクロナデ	不明	-	36	24	
44	B-7	SG41F1	土師器	無台杯	(14.2)	(7.5)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	内面に漆付着。	36	30	
45	B-7	SG41F1	土師器	無台杯	-	(8.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	36	30	
46	B-7	SG41F1	赤陶土器	無台杯	(13.9)	(7.9)	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	-	36	25	
47	B-8	SG41F1	赤陶土器	無台杯	(5.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面に墨書き「石」。	36	24	
48	B-7	SG41F1	磁器	白磁碗	-	-	-	-	-	不明	内外面施釉。白磁のV型。	36	26	
49	B-10	SG41F1	石製品	砾石	-	-	-	-	-	-	-	36	25	
100	E-11	SG41V層	土師器	杯	(12.0)	-	-	カズリ	ミガキ	不明	-	36	26	
101	B-9	SG41F2	須恵器	無台器	15.8	7.4	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	内面に煤？	36	31	
102	G-9	V層	木製品	柱紐	-	-	-	-	-	-	長幅31.6cm	37	27	
103	I-25	V層	須恵器	蓋	(15.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	-	37	31	
104	I-19	Vc層	須恵器	平盤	4.8	7.6	7.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切→ナデ	ゆびひ多い。	37	1	
105	I-18	V層	須恵器	蓋	14.4	-	1.6	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	ミミ立つ。	38	31	
106	I-19	V層	須恵器	有台杯	-	(8.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	31	
107	J-20	V層	須恵器	有台杯	(12.6)	6.0	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	31	
108	F-12	V層	須恵器	有台杯	-	7.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切	-	38	31	
109	G-14	V層	須恵器	有台杯	-	(7.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	摩滅いため不明	底面に墨書き有り。	38	26	
110	B-6	V層	須恵器	有台杯	-	(7.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切	-	38	31	
111	I-17	V層	須恵器	有台杯	(14.4)	7.8	8.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面に墨書き有り。	38	31	
112	I-19	V層	須恵器	杯	-	(7.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	25	
113	B-7	V層	須恵器	無台杯	(14.6)	(8.8)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	25	
114	I-20	V層	須恵器	無台杯	9.2	(7.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	25	
115	I-17	V層	須恵器	無台杯	13.0	(6.8)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	31	
116	I-21	V層	須恵器	有台杯	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	26	
117	I-17	V層	須恵器	無台杯	(12.8)	(9.0)	9.0	ロクロナデ	ロクロナデ	回転→フタケ	エクリ	38	31	
118	B-5	V層	須恵器	無台杯	14.8	(5.0)	4.25	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	31	
119	I-20	V層	須恵器	片	-	6.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	-	
120	B-5	V層	須恵器	無台杯	-	5.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	31	
121	B-6	V層	須恵器	無台杯	-	7.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	38	25	
122	B-6	V層	須恵器	無台杯	-	6.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	25	
123	E-11	V層	須恵器	無台杯	12.0	4.6	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	-	
124	G-3	V層	須恵器	無台杯	-	6.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	31	
125	I-17	V層	須恵器	無台杯	(13.6)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	31	
126	I-19	V層	須恵器	無台杯	-	(5.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面墨書き有り。	39	25	
127	I-20	V層	須恵器	無台杯	-	5.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	25	
128	I-20	V層	須恵器	無台杯	-	5.1	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	31	
129	I-20	V層	須恵器	無台杯	(13.4)	5.4	2.9	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面及び体部外側墨書き有り。	39	31	
130	I-20	V層	須恵器	無台杯	-	(5.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明切	底部の調整不良。	39	25	
131	I-24	V層	須恵器	無台杯	-	(6.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面墨書き有り。	39	25	
132	I-6	V層	須恵器	無台杯	(13.8)	(7.4)	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	-	
133	J-20	V層	須恵器	無台杯	-	5.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	25	
134	I-20	V層	須恵器	杯	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	-	39	25	
135	I-20	V層	須恵器	有台杯	(15.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	I-19V層と接合。	39	25	
136	B-5	V層	須恵器	有台杯	-	-	-	ニビナデ	ロクロナデ	不明	耳のみ。	39	26	
137	I-20	V層	須恵器	蓋	(12.0)	6.0	1.4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	-	39	31	
138	B-10	V層	須恵器	蓋	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	内面漆付着。外側擦痕あり。	40	23	
139	B-6	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	-	40	23	
140	B-6	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	内面墨書き。	-	40	23	
141	F-12	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	-	40	23	
142	I-17	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	-	40	23	
143	I-19	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	-	40	23	
144	I-20	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	-	40	26	
145	I-20	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	-	40	23	
146	I-20	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	-	40	-	
147	I-21	V層	須恵器	便	-	-	-	タタキ目	アラヅ	不明	-	40	23	
148	I-20	V層	須恵器	便	-	-	-	ロクロナデ→カ 年目	ロクロナデ	不明	-	40	23	

番号	ダリッド	出土遺構	器種	種別	口径	底径	深さ	外面	内面	底部	備考	博国	国版
149	I-17	V層	須恵器	便	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		40	23
150	I-20	V層	須恵器	便	(13.0)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		40	26
151	I-20	V層	須恵器	便	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		40	26
152	G-14	V層	須恵器	直?	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	須加羅ぎ日を断面 三角形の隆起にし て整形。	40	32
153	F-6	V層	須恵器	直底三	-	(10.0)	-	ケズリ	ハケ目	ナダ?		40	32
154	F-11	V層	須恵器系陶	便	-	-	-	タタキ目	アテ瓶	不明	縫洲。	41	32
155	B-7	V層	須恵器系陶	便	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	縫洲。	41	26
156	B-5	V層	須恵器系陶	便	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	縫洲。	41	26
157	B-6	V層	土師器	便	(24.0)	-	-	ハケ目・ナダ	ハケ目	不明		41	22
158	D-20	V層	土師器	便	(13.0)	-	-	ハケ目・ナダ	ナダ	不明		41	22
159	G-14	V層	土師器	便	-	(8.2)	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ瓶		41	32
160	G-14	V層	土師器	便	-	(9.0)	-	ハケ目(ケズ リ?)	ハケ目	木葉瓶		41	32
161	I-17	V層	土師器	便	-	(6.0)	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ瓶		41	-
162	I-18	V層	土師器	便	-	8.3	-	ハケ目	ハケ目	ムシロ瓶		41	32
163	I-17	V層	土師器	便	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明		41	28
164	I-18	V層	土師器	便	-	-	-	ナダ	ナダ	不明		41	28
165	I-17	V層	土師器	便	-	-	-	不明	不明	ムシロ瓶		41	32
166	I-19	V層	土師器	便	-	-	-	ハケ目・ナダ	ハケ目→ナダ	不明		41	22
167	I-19	V層	土師器	便	-	-	-	ハケ目・ナダ	ハケ目→ナダ	不明		41	28
168	I-19	V層	土師器	便	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明	外面に漆取付着。	41	-
169	I-19	V層	土師器	便	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明		42	32
170	I-19+20	V層	土師器	便	-	-	-	不明	ハケ目	不明		42	28
171	I-20	V層	土師器	便	-	(9.0)	-	ハケ目	ハケ目	木葉瓶		42	32
172	I-20	V層	土師器	便	-	(10.4)	-	ハケ目	ハケ目	木葉瓶		42	32
173	I-20	V層	土師器	便	19.2	-	-	ハケ目→ナダ	ナダ	不明	内面黒色処理。	42	22
174	I-20	V層	土師器	便	-	(10.0)	-	不明	不明	木葉瓶		42	32
175	I-20	V層	土師器	便	-	-	-	ハケ目	ハケ目	不明		42	-
176	I-20	V層	土師器	便	-	-	-	ハケ目	ミガキ	不明	内面黒色処理。	42	28
177	G-14	V層	土師器	小切妻	(10.6)	-	-	ハケ目・ナダ	ハケ目→ナダ	不明		42	28
178	I-19	V層	土師器	小切妻	-	-	-	ハケ目・ナダ	ナダ	不明		42	28
179	I-19	V層	土師器	小切妻	(14.8)	-	-	ハケ目・ナダ	ハケ目→ナダ	不明		42	28
180	B-5	V層	土師器	折	-	6.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		43	32
181	I-17	V層	土師器	折?	-	(7.6)	-	不明	黑色処理	不明	漆多量に付着。	43	29
182	B-5	V層	土師器	無折	(6.0)	-	-	ロクロナデ	ナダ	回転系切		43	29
182	I-19	V層	赤陶土器	有台坪	(6.8)	-	-	ロクロナデ	不明	静止系切 い。	内面火ハカリ着し	43	29
183	G-14	V層	土師器	無台坪	-	6.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面に墨書き「可」。	43	26
184	B-10	V層	土師器	有台坪	(15.3)	8.0	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切		43	32
185	B-5	V層	土師器	有台坪	-	(6.8)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	燒成不良。	43	29
186	I-20	V層	土師器	有台坪	-	6.6	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	被熱着しい。	43	29
187	I-20	V層	土師器	有台坪	-	5.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切	内面黒色処理。	43	29
188	B-5	V層	赤陶土器	無台坪	(6.4)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切		43	29
189	I-17	V層	赤陶土器	無台坪	-	6.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	燒成不良。胎土に 砂多く混じる。	43	29
190	B-5	V層	赤陶土器	有台坪	-	5.8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切		43	29
191	I-19	V層	赤陶土器	有台坪	-	(7.2)	-	ロクロナデ	欠けており不明	回転系切		43	29
193	B-5	V層	赤陶土器?	便?	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	不明		43	28
194	I-6	V層	施釉陶器	耳皿?	-	(4.8)	-	不明	ロクロナデ	回転系切	内面に灰釉。	43	26, 32
195	G-11	V層	かわらけ	-	-	-	-	ナダ	ナダ	不明		43	26
196	G-14	V層	かわらけ	-	(10.4)	-	-	ナダ	ハケ目→ナダ	不明		43	26
197	I-16	IV層	須恵器	有台坪	14.8	7.0	5.35	ロクロナデ	ロクロナデ	回転系切	底面及び体部外側 に墨書き有り。	37	32
198	X-0	須恵器	平瓦	-	-	-	-	圓目状タタキ	布目瓦瓶	-	厚さ2.6cm	37	32

## IV 考察

### (1) 検出された遺構について

今回の梅野木前遺跡の発掘調査では、報告したもので堅穴住居跡3棟・掘立柱建物跡3棟・土坑5基・柱穴77基・溝跡18条・河川跡1条である。

出土遺物の傾向から、時期は大きく8世紀末から9世紀前半にかけてのものがほとんどであると推定される。ただし、後述の様に大半の遺物は、遺構検出面直上のV層、あるいは堆積時期が中世前期以降まで降るSG 41河川跡覆土中より出土したものである。

SI 37・SI 80堅穴住居跡は検出時の平面形状が不整形を呈し、カマドを確認することができなかった。いずれの遺構からも被熱窓(5~7)や、熱を受けた須恵器(9)が検出された。今回の発掘調査の中で、SI 37より木簡(2)が発見されたことは特筆される。

SI 168は、SX 139・SX 140覆土中に多量の炭化物及び焼土が確認された事により精査を行ったが、カマドは確認できなかった。住居跡全体の形状について範囲の確定に難はあるが、床面を整地した遺構がSX 139・SX 140と推定した。

SB 169・SB 170は現場段階で遺構範囲が推定できたが、溝跡と柱穴群は伴うものか、あるいは溝跡を建物が切るのかについては不明である。

前後関係を整理すると、SB 169北東隅のSP 164はSD 16の精査後に確認され、SD 16はSD 35に切られる。軸線方向から推測すると、SD 35はクランクしてSD 29と同一の遺構となる可能性も考えられ、この場合、SP 164(SB 169)→SD 16→SD 35・SD 29→SB 170といった切り合いが想定され、大きな時間的隔たりはないものの、SB 169よりSB 170は新しい可能性が考えられる。

SB 171は、整理作業中に図上で推定復原を行い、遺構として登録した。柱穴としての規模にバラツキが見られ、遺構の同時性が不明だが、SD 113・SD 115等の蛇行する溝跡により囲まれる様相を呈している。

土坑跡や柱穴については、平面検出形状が不整円形のものが多く、出土遺物量も全体の出土状況からするとごくわずかであり、遺物を伴う遺構も少ない。しかし中にはSK 18の刀代(52)、SP 160・SP 161出土の土師器甕(30・31)の様に、遺構に埋納されたような特殊な出土状況を呈するものもあった。建物跡を構成するに至らなかつた柱穴跡(表2)には遺物を伴わないものが多く、具体的な時期判断は困難であった。大半がV層を精査した後の検出であつたため、古代の遺構であると判断されるが、一部後世の耕作痕を含む可能性も考えられる。

溝跡は、上述のI-18~19グリッドに検出されるSD 113・SD 115などは蛇行して深さは10cm前後の堆積状況であった。

その他の溝跡については、規模が幅20~30cm・深さが10~15cm前後の、断面半月状を呈する浅いSD 36・SD 40・SD 82・SD 123・SD 126等、規模が幅40~60cmのSD 1・SD 125等が確認される。調査区形状が大きく制約されている都合から、遺構配置の中で、先述の堅穴住居跡や掘立柱建物跡と溝跡との関連性については不明である。切り合い等が確認されている箇所もほとんどなく、これらの浅い溝跡が集落の中でどのような役割にあつたのかは不明である。

### (2) 出土遺物について

今回の調査によって出土した遺物は時期的には8世紀後半から9世紀前半にかけてのもの・12世紀後半のもの・近代のものが確認された。主体を占めるのは古代の須恵器である。

ほとんどの遺物が後世の耕作により攪拌されたと推測される。遺構に伴うものは少なく、V層からは大量の遺物が確認されたが、その上層のIV層に含まれる遺物も含め、複数のグリッドにわたる範囲で離れ、10m前後の範囲に跨つてなお接合するものも確認された。

須恵器の帰属時期は、形状の観察により分類を行うと、無台の坏は、回転鎔切の後、簡易にナデた痕跡が見られるもの、ある程度底径が大きく（4～5cm前後）回転糸切による調整が施されるもの、底径が小さく回転糸切・わずかに静止糸切のものが見られた。そのため、底部の特徴から判断して奈良時代末～平安時代中葉までの時期に至るものと推定された。

甕は外面に平行タタキや格子状タタキ、内面に同心円状アテ痕などが認められるものがほとんどであった。甕は体部外縁にケズリ調整、内面にカキ目やナデが施されるが、破片資料がほとんどであった。特に甕の破片（11・39など）で、体部の外縁を研磨具として利用したような擦痕が顕著に見られるもの、あるいは火を受けているものが数点見られたが、用途は不明である。

特徴的な遺物としては、平瓶（104）が1点出土した。I-17グリッドのVc層中からの出土である。集落遺跡の発掘調査による検出事例としては県内初出である。

土師器の大半は全体の復元に至らないものが大半であった。特に破片資料ながら甕・小型甕が多く確認され、土器の遺存状況はあまりよくない。体部の外縁にハケ目が施され、口縁部から屈曲部分をナデしている調整を施すものが大半であった。ロクロ整形による土師器甕は確認されなかった。

赤焼土器は、ロクロ整形による有台及び無台の赤焼土器坏が確認された。散発的にSG41及びV層覆土中から出土した。接合が困難なもののが多かったため、図化に至ったものは少ない。概略的な特徴としては、無台坏は底径が大きく底面縁辺部に高台状に沈線を施したもの、底径が小さく切りっ放しのものに大別される。有台坏は幅6～8mm程度の肥厚な広大がつくものが目立った。

特筆すべきものとして、施釉陶器の耳皿状の皿（194）が出土している。体部のカーブが均一でないため、耳皿の可能性を推定した。V層中からの出土であり、遺構には伴わず、他の遺物との共伴関係も不明である。底部切り離しは回転糸切であり、見込みに緑色の灰釉が施釉されている。また、廃土中からの出土だが、平瓦（198）が1点確認された。

墨書き土器は11点確認された（1・8・16・79・97・109・111・124・129・131・197）。須恵器・赤焼土器の無台・有台坏の底部もしくは体部に書かれているものが多い。字形が判読できたものは（97）の「石」のみである。他に刻書き土器（183）が1点のみ出土しており、字形は「可」である。

木製品では、SI37覆土中より木簡（2）が確認された。軽文については山形大学人文学部の三上喜孝准教授より内容について軽文を頂いた。内容の詳細については附章を参照いただきたい。同遺構からは形状及び表面の整形の酷似する木製品（3）が出土しており、同一個体かどうか判断としないが、同じく呪符木簡の断片かと考えられる。「龍王」名の記載のある木簡は県内では2例目となり、米沢市出土遺跡（須賀井・黒沼・佐藤 2002）に続く出土となる。また、刀代（52）がSK18覆土底面より出土した。

石製品では、焼けたものや、表面に炭化物を多量に付着した礫が散発的ながら確認された。用途は不明である。

12世紀代後半と考えられる白磁の端反碗V類口縁部片（98）がSG41グリッドのF1層より出土しており、12世紀代と推定されるかわらけがG-14グリッドのV層中から出土しているため、SG41の年代は8世紀代後半～12世紀代後半に至るものと推定される。

SD36からは株洲系陶器片（48）が出土している。

遺構検出範囲のほとんどが、SG41F1層と酷似するV層により覆われており、V層を精査した後に遺構が検出される状況にあった。

この他に本調査区内で、古代・中世以降の時期に帰属すると判断される遺構が確認された。これらは昭和30年代実施の耕地整理時基盤層のIII層を精査した後に検出されたため、近代以降、昭和30年代までの間に形成された遺構と判断される。木杭や陶磁器類が少量出土したが、紙数の制約のため、掲載しなかった。

### (3)まとめ

本次調査区においては、過年度の調査成果と若干ながら関連性を見出すことができた。出土遺物の年代も時期的に重複しており、一連の遺跡であると判断される。

立地は本次調査区と西隣の平成17年度調査区は同一であり、北西方向に至る平成15～16年度の（財）山形県埋蔵文化財センター調査区に向って低くなる状況にある。

大まかに、本次調査区の検出遺構の時期区分について概要を述べておきたい。報告書中に記載したほとんどの遺構は9世紀前半、平安時代の遺構と判断される。

例外としては、須恵器系陶器の出土したSD36、及び中世の遺物を若干含み、SD36を切るSG41が年代の下限が12世紀後半まで降る可能性がある。

遺構の性格は、調査区が大きく制約された事により、遺構全体の様相については不明な点が多い。しかし木簡や平瓶などの特徴的な遺物の出土が確認された事などから、扇状地前縁部内微高地に立地した平安時代前期の集落様相とその祭祀的活動の一端が明らかになったものと考える。今後、特に墨書き器が多量に出土した（財）山形県埋蔵文化財センターによる平成15年度調査区等との比較が今後の検討課題として挙げられよう。

### 参考文献

- 阿子島功・茨木光裕・江川隆・武田和宏 1994『梅野木前1遺跡発掘調査概報』山形市教育委員会  
阿部明彦・水戸弘美 1999『山形県の古代土器編』第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料集 第25回古代城柵官衙遺跡検討会事務局  
伊藤邦弘 2007『梅野木前1遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第160集  
植松薰 2006『梅野木前1遺跡発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第26集  
小野忍 1979『酒田市樋ノ口出土の須恵器』『さあべい』第2巻第4号 さあべい同人会  
柏倉亮吉 1982『5 和名抄による郡の分布』『山形県史 第一巻 原始・古代・中世編』山形県  
金井の歴史刊行会 2003『金井の歴史』  
國井修 2004『南志田遺跡発掘調査報告書』山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第23集  
須賀井新人・植松曉彦『今保遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第7集  
須賀井新人・黒沼幹男・佐藤明日香『馳上遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第101集  
須賀井新人 2003『山形県内の黒色土器編について』『山形考古』第7巻第3号 山形考古学会  
高畠町 1971『高畠町史 別巻 考古資料篇』  
武田和宏 2003『河原田遺跡 梅野木前2遺跡発掘調査報告書』山形市埋蔵文化財調査報告書第22集  
南陽市 1987『南陽市史 考古資料編』  
八ヶ郷駆土地改良区 1994『八ヶ郷駆と土地改良区』  
平田天秋 2006『洲崎焼窯跡群・洲崎古陶問係遺跡発掘調査等事業』洲崎市教育委員会  
山形県 1982『土地分類基本調査 山形』  
山形県教育委員会 1992『分布調査報告書(19)』山形県埋蔵文化財調査報告書第171集  
山形市 1973『山形市史 上巻』  
横田賢次郎・森田勉 1978『大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心として—』『九州歴史資料館研究論集』4



田翠（一九九五）とする説などがある。

③の木簡が出土した内廷日向周辺地遺跡は、湧水によって西から東に向かい開削された谷津状地形の底部に位置する遺跡で、三点の木簡は、古代の谷津状遺跡から出土したものである。

この本が作成された「新編萬葉集」による開発説話である。八世紀前半に成立した「新編萬葉集」の行方、戴ヶ浦に面した谷地には、複雜に入り込む何本もの谷があった。筋枯麻智という人物は、この本が作成された「新編萬葉集」による開発説話である。八世紀前半に成立した「新編萬葉集」の行方、戴ヶ浦に面した谷地には、複雜に入り込む何本もの谷があった。筋枯麻智という人物は、

この谷口の低湿地の茶原を切りはらつて、新たに水田を開発した。その開発に際して、谷に住む谷戸（夜刀）の神である蛇を鎮めるために、夜刀の神である蛇を祭ったことが風土記に記さ

その点から、本木簡が谷地における水田開発の際の祭祀と関わっているのではないかと推測される。風土記にみえる行方郡の谷戸の景観と、内匠日向固地道路の地形は類似しており、その点から、本木簡が谷地における水田開発の際の祭祀と関わっているのではないかと推測される。

③の本簡を訳読した平川南氏は、「常陸風土記」の説話をふまえて、これを「天罰、蚊蛇、龍王に奉る」と読み、「龍神の使いで谷戸（夜戸）」の神である蛟蛇が水の枯渴または大雨によ

る洪水を恐れ、水神である御主に雨乞いまたは止雨を祈願した礼ではないか——あるいは、「谷戸開発に伴う犯土のさいに開拓に対する祭祀を実施した可能性も、考えられるであろう」と推

定している(平川南一、一九九二)。④の本編は、「八人龍王」がぐり返し記されている点が特徴である。これが「法華經」などにみえる「八大龍王」のことを意味しているとすれば、新田や止上にかかるる本篇であると推定

できる。さらには、河川筋から出土している点からも、河川の枯渇あるいは増水による洪水を恐れ、水神である「龍王」に雨を乞うるは止雨を祈願した札であると考えることもできる。(三)

上喜孝  
（二〇〇一）  
さて、本小節に立ち戻ってみると、記載内容は、①の本小節に近い。すなわち、「東方青龍王」

う表現にさわめて近い。『方の白面王』に『の木の白面王』『西の木の白面王』『中白生白面王』とし、本篇にみえる、東方を「青」とし、南方を「赤」とし、西方を「白」とする考え方は、い

うまでもなく陰陽五行説にもとづくものであり、東方の守護神として「青龍」、南方の守護神として「朱雀」、西方の守護神として「白虎」、北方の守護神として「玄武」があることはよくとして「朱雀」、西方の守護神として「白虎」、北方の守護神として「玄武」があることはよく

知られている。

（管領）のかぎり、木簡の記載と対応する表現を持つ經典に、名古屋市の七寺一切經（平成元年春）<sup>10</sup>がある。

「私告東方青龍王軍、南方赤龍王軍、西方白龍王軍、北方黑龍王軍。五行六甲禁忌十二時神立符。時歲月劫數。家主、父母墓前微在墓石。墓延八神天神地神公母神子女神各安所在。墓有嫌害人。

生。起功立勳，傷害衆生，恐犯罰公。立家天上諸神及立中諸神恐殃害亡人致趣。便生人家中諫詞大小若有疾病，或致官家口舌橫生，裁財不長家中不安，田重不收。

東方青龍王・南方赤龍王・西方白龍王・北方黒龍王に告ぐ。五方・六甲禁忌・二時神・符を立す。時歲月劫数あり。星主・父母の墓前におかしに黒毛玉冠を戴く。慈忍の八神・天神・公神、其の母神・子女神、おひのれの住主を尊ぶるなり。常に人生を護護するあり。功を起して

墓を立てれば生靈を傷害し、土公を傷犯するを恐る。家を立てれば天上の諸神、及び土中諸神は亡人を嫌害するを恐れて、趣くことを致さず。便ち生人の家中に諱詞の大小あるは、疫病ある

成いは官家の口舌横に生じ、銀財長也す家中安んぜず。

これは家業を安穩に保つことを説いた経典であるが、同種の経典として、居宅の安寧を説いた「安宅經」がある。これは、後醍醐天皇承和元年（894）として「大嘗新修大藏經」第二卷に収められ、其の後中國傳述の「安宅經」は、典型的な中華傳述の經典であると考えられる。「安宅經」は、『味經音』において「安宅士側の経を説ましむ」とあり、七世紀後半隋唐でてに日本に受容されていたことが分かり。八世紀の正倉院文書でもその名がみえる。この「安宅經」にも、「東方大神龍王七里結界金剛寺、西方大神龍王七里結界金剛寺」という表現がみえ、蘇原京出土木簡の記載とも類似する。

本木簡は、こうした「安宅經」や「安喜經」などの經典の存在が背景にあって作成されたと見えてくる。

「死主」が記載された木簡の詳説をめぐっては、祈雨や止雨にかかる祭祀と結びつけられていることが多いが、「安宅經」「安慈經」などの存在から、鬼主にさして実施された祭祀と

聞わって作成された可能性も考慮しておく必要があろう。

①本木簡の意義（主とめ）

山形県では「三羽目的出土である。」  
②木簡の記載と類似する表現は、「家墓を安穩に保つ」とを説いた經典である『安寧經』などに

みえ、木本簡が、犯土にさいして実施された祭りに用いられた呪符木簡である可能性がある。そして、こうした経典の知識にもとづく儀礼が、平安時代の東北地方にまで広く行われていた。

このとが備蓄してある

芝田文雄  
一九八一「百怪呪符」「伊場木簡の研究」東京堂出版

「古代地方本筋の研究」吉田弘文館、二〇〇三に収録  
平川南 一九九五 「群馬県富岡市内既日向周遭遺跡出土の木簡」『財・群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第一八八集 内既日向周遭遺跡 下高瀬寺山遺跡 下高瀬前山遺跡』のち

誠出版 増尾伸一郎 『(○○)』 「都城の鎮祭と『疫神』祭儀の展開」『環境と心性の文化史 下巻』勲

三上喜孝「二〇〇一「山形市越士遺跡出土木簡」山形県埋蔵文化財センター調査報告第一〇一集」地上遺跡発掘調査報告書財団法人山形県埋蔵文化財センター

和田翠『九十九龍』(『南山の九頭龍』)『日本国家の史的特質 古代・中世』(『考究木彫の系譜』) 日本書院  
和田翠『九十九龍』(『日本国家の史的特質 古代・中世』) 湘文閣出版

# 附章 山形市梅野木前1遺跡出土木簡

山形大学人文学部

三上 喜孝

## 一 形状

上下端は原形をとどめているが、左右側面は欠損している。上下端は、斜めに整形されており、当初からの加工か、あるいはなにかの木製品を転用したものかについては、不明である。

## 二 构文

「東方青龍王 南方赤龍王 西方白龍王」

〔上カ〕

「□□」

「一八一×（一五）×三 ○八一」

## 三 年代

木簡は堅六建物跡と考えられるSI-37から出土した。年代は、伴出の須恵器の环や、遺跡の土層から、九世紀の前半と考えられる。

## 四 内容

本木簡は、内容から考えて呪符木簡であると考えられる。「龍王」の記載が見られる点が特徴である。左右側面は欠損しているが、「東方青龍王」と書かれた行の左側に、「北方黒龍王」と書かれていた可能性がある。

これまで出土している、「龍王」にかかると思われる古代の木簡は、次の通りである。

①藤原京跡九条四坊出土木簡〔『木簡研究』一六号、一九九四年〕

「四方舟□大神御主  
七里□□内□送々打々急々如律令  
（梵字カ）  
〔□（符籙）鬼鬼鬼〔〕八龍王水火電王草木万七千

〔人物像〕  
拂麻佐女生年廿九黑色

〔人物像〕  
拂麻佐女生年廿九黑色  
中央土神王  
南方火神王  
〔人物像〕  
拂麻佐女生年廿九黑色  
〔人物像〕  
拂麻佐女生年廿九黑色

②伊場遺跡出土木簡〔『静岡県史 資料編四』一九八九年〕

「ノ百祐咒符々祐宜矣解和西祐亡佑恭三神○□□○  
宣天正咒符佐口当有佐亡 急々如律令  
弓 龍 神  
（竜の墨画） 人山龍 急々如律令  
蛇子ロロロ

弓ヨヨヨヨ弓

戌 戌  
急々如律令

」

三二一×六七×四 ○三一

③群馬県富岡市内近日向周地遺跡出土木簡〔『財』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第

一八八集 内丘日向周地遺跡 下高瀬寺山遺跡 下高瀬前田遺跡〕

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王  
〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

〔□數□奉龍王

〔号木簡〕

四六七×八三×七 ○三一

## 報 告 書 抄 錄

# 図 版





調査区遠景（北西から）



I-19 グリッド出土平瓶

図版 2



調査区全体（西から）



SB169・SB170 検査（南から）